静岡 ユースサッカー THE YOUTH SOCCER

1月1日日曜日
昭和53年（1978年）

昭和49年5月1日第三種郵便物認可

発行所
静岡県清水市サッカー協会
発行人　堀田　哲爾
清水市七ッ新屋 291
編集人　サッカーニュース社
二本木一夫
清水市真砂町1－12
編集専用電話66－5282（代）

毎月1回1日発行　1部30円

PEPSI

第一回 静岡県女子サッカー大会開幕

読売フラミンゴ杯 争奪戦は！ 一月五日草薙で開催！

七十八年は女性の年といわれている。特に日本サッカー界でも女子サッカー連盟を結成しようとする年でもあり、全国的女子サッカーリーグ・キッチンリーグでも清水入江小が参加して初優勝するほど、清水の女子レベルは高い。

そのはずである。もともと女子サッカーの発祥の地である。

三十三年、江尻小学校の女子チームが生まれて二十年、その女性がいまやママさんになった。そして第一回静岡県女子サッカー選手権大会の開催となったわけである。

この大会、読売新聞社が中心となり、県内女子サッカーの組織づくりとともに育てていくもの。大会のカップも優雅な女性。足の長い女性の大会とするために県理事長が『フラミンゴの大会』と名付けた。曲に合わせて踊るようなフラミンゴの大会であってほしいとの願いも入っての大会である。

過去、小中学生の女子サッカーは常にクローズアップされているなかで、ママさんのチームが中心になってやる大会としては初めて。

さてどんな大会になるか一月五日が待ち遠しい。

大会要項と出場チームの組合わせは下記の通り。

フラミンゴ杯　第1回静岡県女子サッカー大会要項

主　催　静岡県サッカー協会
後　援　読売新聞社
目　的　主に，サッカーを中心に子どもの心身の成長を育成する母親として，正しいサッカーのルール理解と健全で明るく楽しく体力づくりをすることを目的とする。
期　日　昭和53年1月5日（木曜日）雨天順延
会　場　草薙総合グランド
大会形式　トーナメント　25分ハーフ　交代自由
組合わせ
浜松可美 ― 10：00 ― 清水ファーストレディ
清水マドモアゼル ― 11：00 ― 浜松河輪コスモス
（14：00）
表　彰　優勝……フラミンゴ杯　準優勝……メダル

少年サッカー指導教程 ⑲

日本サッカー協会公認コーチ　堀田　哲爾

グループディフェンス

ペアーをつくれ

相手のドリブルをうばう、相手のパスをインターセプトするのに全てペアーを組んでやることから考え方をスタートさせる。みんなで守ろうとすると割合視点がぼけることがある。

まず特定のペアーをつくることからはじめよ

センターと、サイドバック、このペアーによってカバーリングを要求できる。まず特定のペアーでよいからゲームのなかで完全なペアーで守る形をつくる

となりにいる者と常にペアーを作る

ゲームのなかで次の段階として、となりにいる者とペアーを組むことが大切である。この考え方は味方を利用することにも通じることである。

タッチライン近くでは特にペアーの守りの成功率が高いはずである

守備側はウイングプレーヤーに対しては一方はアウトラインになるからワンサイドをかけて、次のプレーにペアーのもう一人が反応することによって、完全に近い守備ができる

プレーの方針が大原則になる

ペアーを組んでプレーする時、この二人の中にプレーの原則を理解し合ってやらなければいくらペアーを組んでも守備にはならない。ペアーを組む前にプレーにおける守備の大原則や相手に応じたプレーの源を理解していることが大切である。

極地戦で勝つペアーの力

プレーの方針を理解した守備で、ペアーが力を合わせてプレーすれば、特にせまい範囲のプレーはほとんど有利に展開することができる。

ペアーは次のグループ戦術を生むはじめのプレーである

ペアーが全てではない。十一人のグループの力を増すための手段であることを忘れてはならない。だからペアーからペアーのつながりがチームプレーにつながると考えても良い。

第二回SBS日韓高校親善大会 韓国遠征のスタッフ発表！

昨年大成功に終った日韓高校親善サッカー大会を今年も三月二十日から二十六日まで韓国で開催することになった。

県サッカー協会は早くもこのスタッフを決め、四連勝をめざす国体強化とユース強化と結びつけるための組織づくりをした。

監督には昨年同様の高橋節夫氏、コーチに新人の山本一男氏、主務にベテラン鈴木優氏と決定、あと県協会より理事長以下高体連部長、技術委員長の計六名のスタッフが決定した。

選手は新人戦と選手権優秀選手、各地区選出選手より選抜、最強チームでのぞむことになっている。

ペレの国 ブラジル遠征の日程決まる 選手決定は三月に！

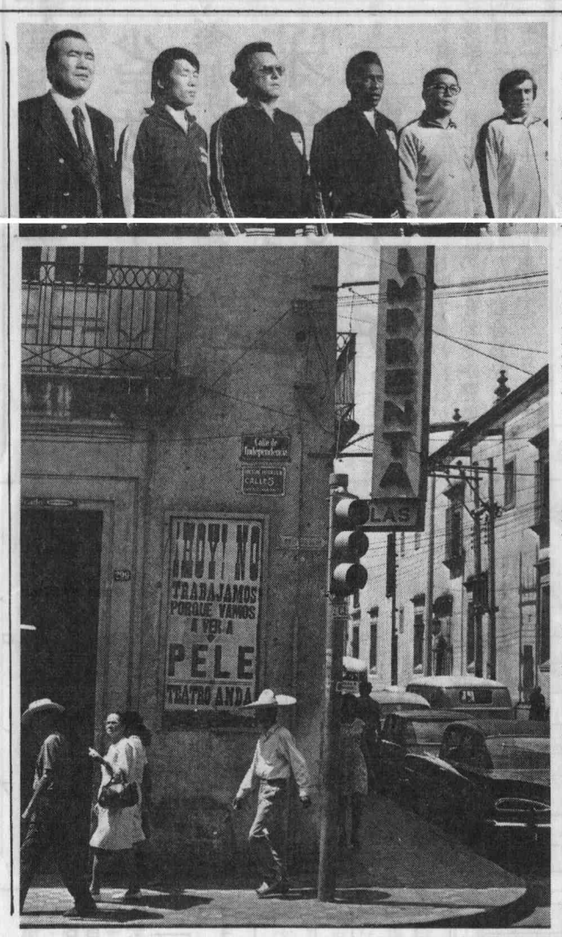
78年のハイライトは何といってもブラジル遠征である。すでに十名の候補選手が決定この中から四十名の代表を選出することになっているが、この程ラジルの試合の日程がほぼ決定した。

サンパウロで行われる十試合のうち、スジアムで行われる試合は公式試合二試合となった。

これと同時に公式訪問先やサントスのペレの事務所等、多忙な日程が組まれている。

この程サントスのペレからも生まれた町角の写真が届き、この時期ブラジルにいる予定である。

また公式試合の二試合はプロの予備軍でブラジル最強チームであるとの連絡を受けた。日本サッカーの前途を決めるような明るいニュースにしたいものである。



◀写真はペレの育った街角

謹賀新年
昭和五十三年　元旦
静岡県サッカー協会　会長　山口　森三　理事長　堀田　哲爾
清水市サッカー協会　会長　稲名　嘉男　理事長　清水　博史
静岡県サッカー少年団育成協議会　会長　中島　巌　理事長　鈴木　石根
全清水フットボールクラブ　代表　堀田　哲爾
ユースサッカー　二本木一夫

東海四県小学生大会 全静岡が初出場で優勝 清水FCは準優勝

第八回東海四県小学生サッカー大会は十二月三日四日、刈谷市営グランドで開催されたが、初出場の静岡が初優勝した。

これで八回のうち県勢が七回優勝したことになる。清水四回、藤枝二回、四日市一回、静岡一回。

★試合結果は次のとおり。

刈谷　3－2岐阜南
静岡　2－1四日市
清水　3－2名古屋
三重郡　10－0岐阜北
〈準決〉
静岡　5－0刈谷
清水　3－0三重郡
〈決勝〉
静岡　2－0清水

昭和五十二年度高校選手権大会 県代表浜名に期待 一回戦は大阪代表と対戦！

久しぶりに強いチームを見た。これが今年の浜名である。

久米、金原のいたスピードの浜名のイメージから、良いサッカーをする浜名となった。

望月、森谷のスピードあるドリブルとシュート、この二人にどちらかというと名前をうばわれて目立たなかった古橋。そして池谷。この四人にボールを持たせたら静学よりはるかにこわい。なぜならばゴールをまずねらってくるからである。

ハーフでは山内の攻撃参加も心強い。横にドリブルしながら、すかさずゴール前にボールを配球する勘のよいプレー。

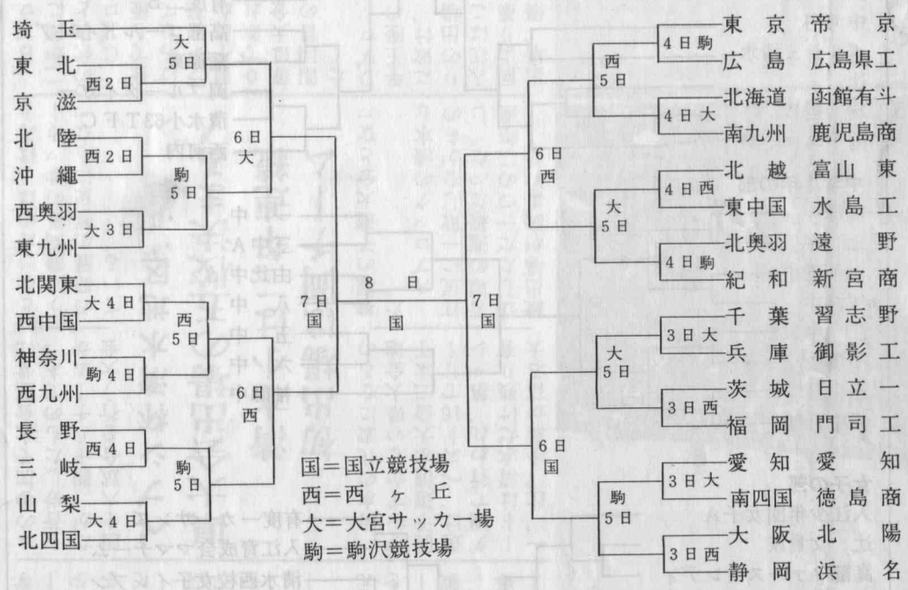
バックは柳下を中心に頭にはみんな強い石津、今田も特に前のボールに強いのはたのしい。

キーパーの宮司も安定してきた。このチームをまとめている美和氏の指導力の変わった点も大きい。特にじっとがまんして使う力が出てきたことと、めったに叱らなくなったことは大きい。指導の力とプレーヤーに自信をつけるもとになっている。

五年連続の準優勝を意識することなく、一戦一戦を良いゲームで終れるようにがんばってほしいものである。

選手権大会の組合わせは右の通り。

昭和52年度全国高校サッカー選手権大会組合せ表



静岡県サッカー協会 技術委員会 新年への抱負

静岡県のサッカー協会は、その組織に於ても運営に於ても全国の中で常に先導的役割を果たしているものと思う。その中核としての技術委員会は県内の正しいサッカーの発展を願い、技術の強化と普及を目標に、より一層の組織の拡充と積極的な事業を打ち出すことにより静岡県サッカー発展の大きな推進力とならなければならない。

先ず強化の面では、県内の五地域にトレーニングセンターを設置し中学、高校の優秀な選手を集めて、徹底した英才教育をはかることである。それぞれの選手に徹底した個人強化のトレーニングを通して国体代表、ユース代表の予備軍としての強化を図りたい。

現在全国に先がけて清水で毎週金曜日午後七時より二時間、清水小学校のグラウンドを利用して行われているが、すでにその中よりユース代表候補が生まれ、今後にその成果を問いたい。

現在次のスタッフでトレーニングセンターを計画している。

東部
青木伸明（富士高）
高田　稔（富士高）
加藤真久（沼津市役所）

中東部
堀田哲爾（清水小）
勝沢　要（清水東高）
望月保次（東海小）
中島孝志（入江小）

中部
杉田基之（静岡高）
高橋節夫（自動車工高）
井田勝道（静岡学園）

中西部
長池　実（藤枝東高）
池田辰夫（藤枝北高）
遠藤　進（川根高）

西部
山本和夫（浜松北高）
長谷川二三（浜松西）
美和利幸（浜名高）

次に毎月定例の技術委員会の会議の内容を公報化し、より多くの人に県下の各サッカー界の現状を理解してもらいたい。

技術委員会では、各回ごとに各種別で行われた大会の反省と今後の課題や小、中、高、大学、社会人を含めた各種別の問題点を含めて熱心な話し合いが行われている。そしてその結果をより多くの人達に知ってもらうために、その内容を公報化したい。

次に当面の課題としては、国体の天皇杯を四年連続獲得することである。総合優勝の原動力はいうまでもなく高校の三年連続優勝であるが、本年から単独チームでも可ということで従来より厳しい状況となったが、本県は従来と変わらぬ選抜チームで行く方針を決定し、今春の韓国遠征から四年連続獲得することである。総合優勝の原動力はいうまでもなく高校の三年連続優勝であるが、本年から単独チームでも可ということで従来より厳しい状況となったが、本県は従来と変わらぬ選抜チームで行く方針を決定し、今春の韓国遠征からその準備を始める。

教員と社会人は技術面の強化もさることながら、勝つことへの意識を高め、チーム内の和を図り、精神的な面での強化も忘れてはいけない。

最後に、各種別で日本一のタイトルをより多く取ることである。

小学校は第一回全国少年団サッカー大会、高校部門は国体、社会人では全国自治体サッカーの三タイトルは獲得することができても全国中学校大会、高校総体、高校選手権等、落としたタイトルは多かった。

更に昨年のホンダ、ヤマハの活躍で活気を見せた社会人は今年こそ日本リーグI部、II部、東海リーグ等の上部に進出するチームが続出することを期待したい。

いずれにしても静岡のサッカーの底流は技術の高さにある。その技術が試合の勝利に役立つ技術に発展させるために、もっと厳しい技術の追求がなされなくてはいけないし、技術偏重にならず、戦術体力、精神力をも併せて強化して行ってこそ名実ともにサッカー王国が生まれるのではないだろうか。

〈文責〉
技術委員長　勝沢　要

ユースサッカーのお申込みは！
中島新聞舗
電話（66）五二八二へ

編集ノート

賀春

日本一の大会規模を誇り、清水の正月を飾る、JC杯少年少女サッカー大会は二百四十チームが参加して今年も熱戦が展開される。五年前の第六回大会参加チーム数は百三十。話は飛ぶが、清水少年サッカーの韓国、ヨーロッパへの遠征から、今年の夏に実現するブラジル遠征への道。清水サッカーは着実に一歩一歩と前進を続けている◆『狂乱物価でさわいだオイルショックの五年前には生活必需品の暴騰はあったが、まだあの頃のほうがましだったという人が多くなりましたね、例によって年賀状は差し上げません。』という変わった友人からの便りがあった。毎年暮れの頃になると時候見舞いを兼ねて届く彼の葉書を手にすると、年賀状は出さないが断わりの葉書は毎年出すという律儀さの中に、古典落語の一節を聴く思いで、筆者は自分の出す年賀状の第一枚目を毎年この友人宛に書いている◆本年もどうぞ宜しく

（二本木）

第十回ペプシ杯県少年団大会

四十八チームが参加 清水市で開催！

小学生三十二、中学生十六、計四十八チームが第十回ペプシ杯少年サッカー大会をめざしてしのぎをけずっている。

四百チームからの四十八チームとあって、各地区でリーグ形式やノックアウト形式で、十二月末には代表チームが決まる。

清水においても地元大会の参加五チームを決めるのに二十四チームが予選に参加、熱戦をくり広げている。

十年前、第一回を藤枝でやった時は十チームの参加で大会運営にも苦労したものであったが、四十八チームが四十六試合を行う大会となったのは、ほんとうに静岡県のサッカーの発展の歴史にもなっている。

ペプシ杯清水地区 県大会出場の五校決まる！

清水小は二年連続 初出場は岡チーム

清水の代表になるのがむずかしい県大会地区予選清水大会二次予選は、ベスト16でリーグ戦で行われ、第一シードは清水だけ残り有一、辻、小島が落る大接戦の予選大会となった。

Aブロックの清水も江尻に一敗しながらの苦戦の連続だった。しかしただ一つの二年連続出場が決まった。

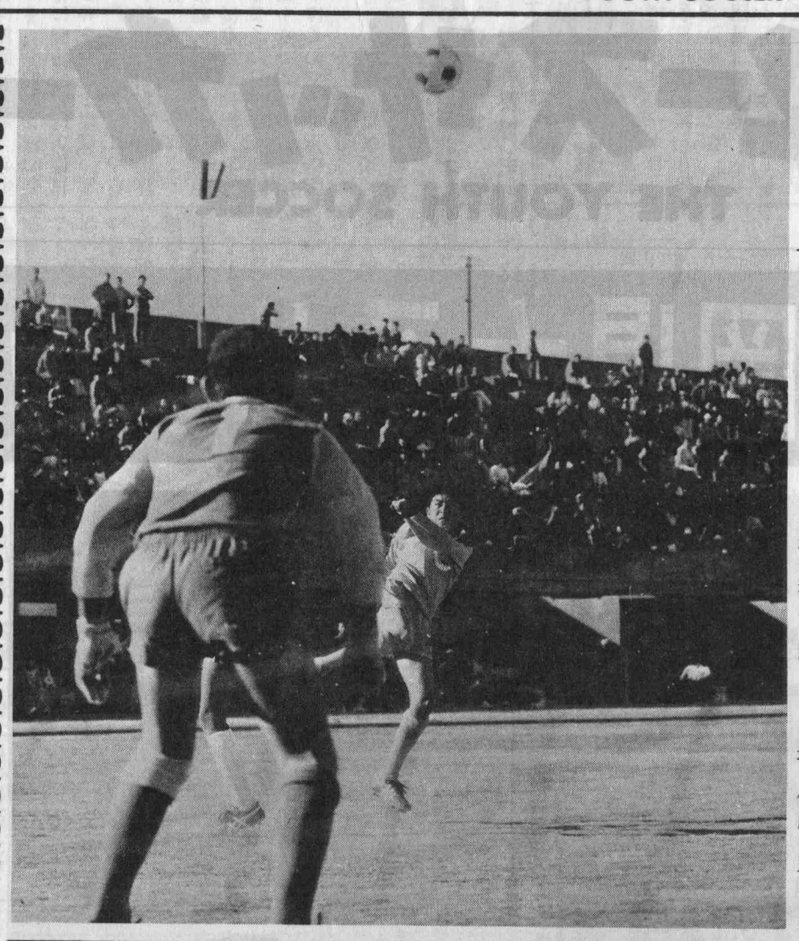
Bブロックは常勝有二が岡に敗れ、岡は初の代表となった。

Cブロックでは県大会でも優勝の候補にあげられていた有一がグランド整備のための練習不足から庵原に1対0で敗れる大波乱、庵原は大金星で五年ぶり四回目の出場が決まった。

Dブロックでは五十二年王座の西河内が入江に敗け、入江も五年ぶりの出場が決まった。入江はこの県大会第一回より第六回まで毎年出場、優勝も三回しており、名門復活の声が高く、入江住民にとって夜が明けた思いであろう。

今年は清水での大会のため、地元代表が一チーム加わるが、このトーナメントには辻、有一、東海、有二の中で戦わされる。

五つ目のチームは奇しくも県大会出場経験チームばかり。はげしい出場権争いが展開されたが結局有一になった。



少年サッカーとチームプレー

ものいわぬ者の声を聞け

幼児のサッカーを指導している先生から、私はいつも教わることが多い。特にサッカーの楽しさを教えようとする中で無理があるのではないかと考えた時ふっとこの言葉を思い出す。

植物を育てたり、焼物に丹精をこめている人がよくいう言葉に『そのものの心を知るためには、そのものとよく話し合うことが大切である』という。

相手が植物であっても、その植物が主人になにを求めているか、なにを話したいのか解らなくてはだめだということである。

私も菊づくりをしていて、水やりは日々のリズムのなかでやるのではなく、菊そのものの、リズムに合わせなければならないとつくづく思うことがある。

ある子どもは菊の水かけを雨の日もやっていることがあった。全く菊の心を知らない行為であり、菊のための水やりではなくなっているのである。

特に相手がものを言わないものは、こちらが聞きとってやることが大切である。少年サッカーの指導はこの心と似ているのではないだろうか。

たとえばサッカーの戦術面であるとか、技術面での解説は子どもには全く通じないし、またその点に関しては全くおしになってしまうのではないだろうか。

これはものいわぬものいえぬ者と同じではないだろうか。一見よくしゃべる子どもも、的を得た話は意外とできないことが多いものである。このわからないような話を聞いてやることこそ大切な指導者の仕事ではないだろうか。

聞いてやることが指導者自身の勉強にもなり、指導の方針にもつながるものであると思う。私は子どもそのものがものいわぬものと考えてよいと思う。一見話しているのは見せかけであって、本心をよみとることのほうが重大な指導につながるものと思う。年令が小さければ小さいほど、いいたいことをいうようでも本当の姿はでていない。本当の要求する姿をよみとってやることこそ、良い指導のできるもとではないだろうかと思う。

私は『ものいわぬ者の声』を完全に聞きとり、それにこたえることのできるような指導者になりたい。（哲）

全清水FC 五十三年度の新指導者決まる

ブラジル遠征をめざす全清水FCは早くも五十三年正月に指導スタッフを発表、始動した。

特に中学生の強化と六年の全国四連勝をめざしてのスタッフは若手中心のものである。

特に今年からゴールキーパートレーニングと同時に金曜日ごとの強化トレーニングコースの中に、ブラジル遠征候補トレーニングを入れることになっている。

全清水FCに特別スポーツ賞

全清水FCの組織づくりを各方面で注目！

77年全清水FCがSBS、SUTの両方からスポーツ大賞を受けた。特に五十二年度の全国の少年大会の全タイトルを手中にした清水は、これで三年間の連勝であるため、表彰式当日、メダルを首にかけてもらった選手は大声で「ありがとうございました。」とお礼をいう姿は三年間の代表のイメージが強かった。

後日県体協より、この時の様子を公式な場で話されたかたがこの表彰式の時の態度のりっぱなのに驚いていた。

スポーツ大賞はこのようなチームに与えるべきだと話していた。

第十回清水市JC杯争奪少年サッカー大会の参加チーム二百四十三チーム

参加チームと組合わせ発表！

第十回清水市JC杯争奪少年サッカー大会は月十五日、十六日、十一日、二十二日の日間で行われるが、その組合わせが発表された。組合わせは次のとおり。

昭和53年度　清水FC指導者

代　表　堀田哲爾
副代表　鈴木石根
副代表　小林芳夫

小3○綾部美知枝　牧田　明　望月敬治
小4○鈴木　淳　中山雅夫　三浦博和
小5○小花公生　望月保次　望月敬治
小6○小島鋼雄　中島孝志　高山　薫
中1○浄見元紹　望月弘敏　望月保次
中2○中井　洋　古川一馬　中島孝志
中3○矢沢秀敏　加藤剛重　小花公生

チャイルド　特別委員会で行う

ゴールキーパー専任　坂健一　小笠原清
特別コース　ブラジル強化コース　堀田哲爾　勝沢　要

清水中学一年リーグ

王座決定戦は清水七中が優勝

中学生強化の一つとして本年度よりはじめられた中一リーグ戦は東部では七中、西部は一中が全勝でそれぞれ優勝したが、十一月二十七日王座をかけて決勝戦が行われたが、好試合の中で七中が2対0で優勝、初のタイトルを獲得した。

一年生のリーグを通して東部では三中と七中の対戦が接戦。西部でも一中と庵原が好試合を演じ、レベルアップに非常に役立った。

特に一年生はボールひろい、ということの多かった部員にとって学年別のタイトルのある大会は非常に意義のあるものであった。

中学校関係者にとっては日程的に非常に無理があったが、それでも完全に日程を消化しその成果は各所に表われている。

優勝した七中は全清水一年のメンバーが九人も揃っている将来楽しみなチームである。有度一、有度二の卒業生が一つにまとまり、好チームをつくった。

これに小学生時代よりライバルだった三中と一中が加わり、現中一にとっては今後ともにこの三つの間で火花を散らすことと思う。

しかしながら初のこころみであったが、関係者に非常に大きな収穫を与えてくれた大会であった。

昭和53年度県サッカー少年団事業計画

4月7日(金)　又は10日(月)	育成会常任理事会（清水）
4月22日(土)　又は30日(日)	県育成会総会　登録終了　県大会抽選
5月3日(水)	全国サッカー少年団大会地区予選終了（各支部）
5月7日　14日　21日(日)	スポーツ祭親子大会（清水・ぬまづ）
5月27日(土)　28日(日)	全国サッカー少年団大会県予選（清水）
7月31日～8月5日	全国サッカー少年団大会（読売ランド）
8月17日(水)　18日(木)	つま恋招待サッカー大会第5回（つま恋）
8月26日(土)	さわやか杯争奪第3回静岡県大会（草薙）
10月4日(水)	県育成会理事会　東海四県大会　県大会原案提出
11月3日(祭)	東海四県大会県予選　10：30～（草薙）（静岡）
12月2日(土)　3日(日)	東海四県少年サッカー大会（NHK放映）
12月	県大会地区予選　25日までに終了のこと
1月11日(水)	県大会打ち合わせ役員会（静岡）
1月25日(木)	県大会出場チーム代表者会議（静岡）
1月26日(土)　27日(日)	県中学選抜大会
2月2日　10日　11日　18日	県少年サッカー大会（第11回静岡会場）
2月24日(土)	招待選手少年サッカー教室
2月25日(日)	県中学選抜大会決勝
3月11日(日)	技術指導講習会（静岡）

◇清水クラブサッカー少年団ブラジル遠征　8月7日～20日の予定
◇三国対抗少年サッカー大会（清水）　8月21日～24日（日本　ドイツ　アメリカ）
◇清水招待サッカー大会　12月24日～27日

PEPSI

第10回 清水市JC杯争奪少年サッカー大会組合わせと参加チーム

チャイルドの部（1年生以下）
入江カウンタック
チャイルドA
興　津
不　二　見
イスカンダル
有度一・A
東海ノーティキッド
小　河　内
三　保　二
チャイルドC

高部ヤッタローズ
有度一・B
清水はやぶさイレブン
飯田ファイターズ
袖　師
ヤ　マ　ト
入江ポルシェ
庵　原
東海モスキート
チャイルドB

小学6年の部
バイエル清水
西河内B
江　尻B
興　津B
不二見A
有度二A
清水カウンタックイレブン
有度一陸上部
駒　越A
由　比
小　島
蒲原西
有度一C
三保一
浜　田
中河内
ポルシェ清水
辻
駒　越B
岡イエローターイガー

庵　原
不二見ガンバローズ
江　尻A
興　津A
東海ファーランズ
袖　師
清水二軍イレブン
飯　田
小河内
有度一A
入　江
不二見B
有度一B
三保二
有度二B
高部ゴールドイレブン
蒲原東
岡ブルータイガー
清水小63TFC
西河内

小学3年の部
江　尻　A
不　二　見　B
庵　原
岡小ブルドックス
三　保　一　A
蒲　原　西
飯　田　B
蒲　原　東
東海コンバット
袖師サッカースポ少A
興津スポ少B
小島ギャングズ
高部モンキーズ
小　河　内　A
有度一・B
西河内ブラックイレブン
有度二・B
入　江　ペ　レ
興津スポ少A
入江ポルシェ
浜　田
岡ヤンチャーズ
不　二　見　A
由　比
江　尻　B
有度二・C
有度一・A
辻サッカー少年団
駒越サッカースポ少
三　保　一　B
飯田ファイターズA
三　保　二
袖　師　B
清水小レッドイレブン
東海アノン
有　度　二・A

小学4年の部
庵　原
ファイヤーイレブン
有度二・C
浜　田
蒲　原　西　A
小　島
有度一・B
飯田ファイターズB
蒲　原　西　B
辻
興　津　A
東海ドウー
西　河　内
有度二・A
有度一・A
高　部
岡リトルダックス
由　比
江　尻
袖　師
有度二・B
飯田ファイターズA
入　江
三　保　一　A
興　津　B
不　二　見
蒲　原　東
小　河　内

小学5年の部
庵　原
岡
袖　師
三保一
高　部
有二B
蒲原東
興津B
不二見
由比B
浜　田
江　尻
有度一
辻
入　江
飯　田
興津A
清　水
由比A
小　島
三保二
小河内
東　海
有二A

中学2・3年の部
六中3年
庵中2年
五中2年
蒲原2年
両中2年
八中2年
富士川一中
興津中
袖中2年
五中野球3年
小島中3年
二中3年
由比中
一中2年
七中2年
三中3年
二中2年
三中2年
八中野球
五中野球2年
蒲原3年
庵中3年
袖中3年
小島2年
五中3年
四中
七中3年
八中3年
両中3年
六中2年
一中3年

女子ジュニアの部
入江コロボックル
興津サッカー少年団
小河内ピンクレディーズ
小河内コスモス
清水チーターレディーズ
西河内イレブンちび

チャイルドの部（2年）
庵　原
興　津
有度二・B
駒　越
小河内ファイターズ
三　保　二
有度一・B
岡レッドスターズ
高部ヤッターワン
袖　師
飯田ファイターズA
入江シュート
飯田ファイターズB
西河内スペシャル
岡ブルースカイ
有度二・A
辻
小島わんぱくず
入江ゴール
有度一・A
東海ダックスフンダーズ
清水オルカイレブン
不　二　見

中学1年の部
庵原中
七　中
両河内中
興津中
二　中
小島中
三中B
五中野球

一　中
三中A
由比中
八　中
五　中
六　中
袖師中

女子の部
入江少年団女子A
辻　女貴族
高部ファーストレディ
有度一陸上部
浜　田　A
西河内コスモス
スーパーレディー
興津サッカー少年団
袖師サッカー少年団
六中女子ハレホレチーム
中河内サッカースポ少

有度一カーサンズ
入江育成会ママチーム
清水西校女子イレブン
清水6の3
浜　田　B
入江ダンプ女子B
有度一女子
両河内中1年女子
西河内タタリジャ
高部ファーストレディ
袖師レッドイレブンママ